

# 一般質問

一般質問とは、議員が高山市政全般にわたり、事務執行の状況及び将来に対する方針などについて所信を質すとともに、報告、説明を求め疑問を質すものです。

## 放課後等デイサービスの支給日数について

日本共産党高山市議団  
坂下美千代



**問** 障がいのある児童・生徒らの自立支援や日常生活の充実、保護者支援のために「放課後等デイサービス」の支給日数は、厚生労働省の通達で原則、月に23日を上限としている。そのため市の日数制限は基本的に外し、子どもや家族の状況に応じた支給日数にすべきではないか。

**答** 福祉サービスの適正利用と持続可能な福祉サービスの構築の観点から、現在のところ、一定の基準は必要と考えている。「審査委員会」における協議などを踏まえ、子どもや家族の実情に寄り添った適切な制度運用となるよう、引き続き検討していく。



## 10月閉院となる高山厚生病院の対応について

日本共産党高山市議団  
上嶋希代子



**問** 高山厚生病院を利用されている方の多くは自分の生きる最期は厚生病院とっており家族も強く病院の存続を望まれている。その病院が10月に閉院となり、その時期は迫っている。今後の対応について市長の考えは？

**答** 高山厚生病院と同様の機能を持つ施設である介護医療院については、当然必要な施設として認識している。10月の閉院に向けて、それがすぐにできるかと言えればかなり困難である。今後、市の医療体制全体の中で1つの大きな柱として位置付けて取り組んでいく。



## 歴史遺産の保全と活用を複眼的に考えよう！

未来  
松山篤夫



**問** インバウンド富裕層をターゲットにした観光施策において、今「考古学観光」が注目されている。国府地域には県下最大級の横穴式石室を持つ「こう峠口古墳」等がある。古代人が巨石を用いて築造した石室内の見学などは旅行者に非常に魅力的な体験になる。市の考古学観光に対する考えは。

**答** 地域における文化財保全の意識高揚といった面においても重要なものであると認識している。遺跡などの多様な地域資源の活用は滞在時間の増による連泊や域内消費の拡大、中心市街地の混雑緩和など多くの利点を有しているため、今後、活用を図っていく。



こう峠口古墳

## 子どもの権利擁護について

新政たかやま  
水野千恵子



**問** 4月より「こども家庭庁」がスタートし、社会全体で子どもの人権を守る意識が高まってきた。虐待はもっとも許せない行為だが、子どもの心のケア等への市の対応は？

**答** 「子ども発達支援センター」「母子健康包括支援センター」等と連携を図りながら子どもの様子の見守り、家庭支援に取り組んでいる。地域全体で子育て家庭のサポートができるよう、第三者（アドボケイト）も含め、専門性を有する者が増えるのが望ましいと考える。

